

三、從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康甚ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ
賃金百二十日分

四、身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ
賃金五十日分

第八條 前條第一號、第二號ニ該當スル退隱者ニハ其ノ在職中ノ勤勞ノ餘額シ第六條ニ掲グル金額ト同額ノ特別退隱手當ヲ給與ス
但シ前條ニ依リ給與シタル扶助料ノ額ハ之ヲ控除ス

第九條 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リクルモノ治癒退隱ノ場合前條ニ依リ雖キモノニハ第六條ニ掲グル金額以下ニ於テ特別退隱手
當ヲ給與ス但シ再ヒ就業ノ後退隱スル場合ニハ事情ニ依リ幾分ノ手當ヲ給與スルコトアルヘシ

第十條 死亡又ハ傷病重キ場合ニ特ニ近親者ヲ呼ビ寄スル必要ヲ認ムルトキ一人ヲ限リ往復汽車、汽船、三等賃金陸行手當一里毎
二十錢及旅行日數一日毎二十五錢ノ日當ヲ給與ス、

第三章 歸郷手當

第一條 職工左ノ各號ノ一ニ該當シ解僱ノ日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル場合ニハ汽車汽船三等賃金陸行手當一里毎二十錢及旅行日
數一日毎二圓以下ノ日當ヲ給與ス

一、第四條ニ依リ扶助ヲ受クル者ヲ解僱シタル場合

二、第七條第一號第二號ニ該當スル者ヲ解僱シタル場合

三、未成年者又ハ女子ヲ當所ノ都合ニ依リ解僱シタル場合

本條ノ場合已ムテ得サル事情ニ依リ當所ニ届出ノ郷里以外ノ地ニ赴カムトスルトキハ特ニ餘額ノ上其ノ目的地迄ノ旅費及日當
ヲ給與スルコトアルヘシ

第十二條 前條第一號第二號ニ該當スル者歸郷スルトキ附添人ヲ必要ト認ムルトキハ一人ヲ限リ第十條ニ準シ旅費及日當ヲ給與ス

第四章 業務ニ因ラサル傷病及死亡ノ場合ニ於ケル手當

第十三條 定備職工及六ヶ月以上勤続ノ臨時僱ノ者傷病ニ罹リ、週間以上休業ヲ要スルトキハ當所病院又ハ官立病院ノ診察書ヲ

認トシ八日ヨリ四ヶ月ヲ限リ一日ニ付定備ニハ其ノ賃金ノ十分ノ五臨時僱ニハ其ノ賃金ノ十分ノ三ニ相當スル傷病手當ヲ給
與ス但シ本條ノ手當額十錢ニ滿タサルトキハ十錢ヲ給與ス

第十四條 傳染病流行ニ際シ職工交通遮斷ヲ受ケ又ハ當所ヨリ入場ヲ差止メタルトキハ其ノ期限内傷病手當ト同額ノ手當ヲ給與ス

第十五條 定備職工死亡シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ弔慰金ヲ當所ノ認ムル遺族ニ給與ス
臨時僱ノモノニ對シテハ特ニ餘額ノ上幾分ノ給與ヲ爲スコトアルヘシ

第五章 吉凶慶弔ニ係ル手當

第十六條 定備職工結婚シタルトキハ四圓以上二十圓以下ノ酒肴料ヲ給與ス

本條ノ酒肴料ハ當所ニ就職後ニ結婚シ一ヶ年以内ニ入籍シタルモノニ限り再婚ハ前配偶者ノ死亡若クハ裁判上離婚セラレタル
場合ニ限り與給スルモノトス

第十七條 定備職工其ノ嫡出子出生シタルトキハ二圓以上七圓以下ノ酒肴料ヲ給與ス

第十八條 定備職工其ノ親子又ハ配偶者死亡シタルトキハ二圓以上十五圓以下ノ香花料ヲ給與ス但シ其ノ死亡シタル家族ハ同一戸
籍内ニ在リテ本規則ニ依リ何等ノ給與ヲ受ケサルモノニ限ル

本條ノ香花料ハ一ヶ年未滿ノ嬰兒死シタルトキニハ其ノ半額ヲ給與シ生後一ヶ月未滿ノモノニハ給與セサルモノトス

第十九條 定備職工其ノ親子又ハ配偶者一ヶ月以上病床ニ在ルトキハ二圓以上十圓以下ノ見舞金ヲ給與ス三ヶ月以上ニ渉ルトキハ
重ホテ同額ノ給與ヲ爲スモノトス但シ其ノ病床ニ在ル家族ハ同一戸籍内ニ在ルトキハ同棲者ニシテ本規則ニ依リ扶助手當又ハ傷病手
當ヲ受ケサルモノニ限ル

第二十條 定備職工在籍ノ儘現役ニ就キ入營スルトキハ臚トシテ五圓ヲ給與ス、本條ノ入營者滿期除隊後一ヶ月以内ニ復職シタル
トキハ酒肴料トシテ三圓ヲ給與ス

第廿一條 本章ノ手當ヲ受ケムトスルモノハ相當ノ證明書ヲ以テ申出ツヘシ

第廿二條 本章ノ手當ヲ受ケヘキモノ二人以上アルトキハ親等近キ一人ニ給與シ親等同シキハ上級ノモノニ給與ス

第廿三條 本章ノ手當ハ其事後三十日ヲ經過シタルモノニハ給與セス但シ當所ニ於テ持ニ其ノ事情ヲ認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六章 雜 則